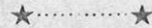


町民に愛される

「広報南関」

編集者は「町の記者」

(編集者の久保田さん)



—五名郡南関町の場合—

中広い広報係の窓口

この町の役場には、総務課内に広報係が設けられている。係といっても、「広報南関」を編集している久保田さんだけである。広報係では、機関紙の発行の他に、いま、町の話題になつてゐる有線放送事業、映画会、それに新生活運動の広報活動といった具合に、意外に窓口は広い。そもそも、広報係を設置したということに、この町の広報活動への関心の深さがうかがえるが、正川町長の熱意もなかなかなようである。さらに、町会議員の認識もたかいようである。よく町議会にて「広報南関」のことが論議の的になることもあるらしい。

絵のうまい編集者

編集担当の久保田さんは、一時、毎日新聞の東京本社に籍をおいたことのある人である。かなり現在の編集業務には慣れているのである。編集者にとつて、絵が描けるといふことは、まさに鬼に金棒である。久保田さんは、幸い絵が得意なので、見出し文字やカット等はすべて自在である。それにカメラの方も器用だ。だから編集はさぞ楽しんだらうと思われ。総務課長の平山さん主任の米田さん、いづれも久保田さんのよき相談相手だが、今のところ編集委員の制度は必要とされていないというところ。

多いネタ提供者

取材は、依頼原稿のほかは、いろいろ



家族計画を語る 緒方さん

「では、指導員の指導というのは、どんな具合にやっておられるのですか」
「一番はじめに受胎調節の基礎資料としてパンフレットを配っておくのですがこれには「家族計画のしおり」や「あなたの家族計画」というのがあります。むづかしい内容のものを極く平易に表現してあります。これを読んでおきますとこれまでに、あゝ、アレのことか……なんて簡単に考えていたことが、具体的にそして正確に認識されてきました。いよいよその必要性を身に沁みて感じるようになるわけですね。とくに、パンフレットの中には、例の人工妊娠中絶のこと、

講習会や実地指導などの連絡も地区委員と打合せて、グループの一人一人に周知されるよう充分な世話をされています。その指導員という方は、川井田勝子さん、浦地はるえさんのお二人で、共に厚生省の指導員免許をうけられており、厚生課の嘱託として家庭会の地区を一つ一つ廻られて、家族計画の実地指導をされているわけですね。

生半可では失敗する

「え、たしかに無分別に扱がっている傾向にありますね。手術がかんたんで気軽にできるということからでしょうが、しかしこの手術が危険性をもっているという点については余り関心を払わない……。そこで、妊娠中絶のおそろしさを実感させて知っていただくために、スライド映写による「そうは」の実態を観てもらふことにしているのです。これが大へんな効き目を呼びまして、これから受胎調節の必要性を痛感したという奥さん方が相当あるんです。」
「そうしますと、パンフレットで一応の勉強を終えたあとで、実地の指導という段階になるんですね。」
「そうです。パンフレットには器具の使い方などもできるだけいいに書いてはありますが、実際やってみると、なかなかそうはいかないんで、やはり、川井田さんや浦地さんが直接各グループにかけていって、実地に解りやすく説明を加えながら指導しているのです。生半可な知識でやると失敗するし、失敗す

つまり「そうは」について、その母体に及ぼす影響と恐ろしさが詳しく書いてあるんです。従つて、家族計画ということが単に子供を計画的に生むということの前に、「そうは」を絶対にやらないという前提に立つて認識されていくのが、大きな目的にもなつてきたわけですね。」
「なるほど、しかし「そうは」は極めて安易に行われているようですが……。」
「え、たしかに無分別に扱がっている傾向にありますね。手術がかんたんで気軽にできるということからでしょうが、しかしこの手術が危険性をもっているという点については余り関心を払わない……。そこで、妊娠中絶のおそろしさを実感させて知っていただくために、スライド映写による「そうは」の実態を観てもらふことにしているのです。これが大へんな効き目を呼びまして、これから受胎調節の必要性を痛感したという奥さん方が相当あるんです。」

実態調査の結果は?

厚生課では、二〇三三世帯の中から四十五才未満の奥さん方一一五人を対象にして、家族計画の実態調査を行いました。ところが、避妊の必要を感じた人が六二一人で、自分の間はその必要を感じないというのが二〇一人、全く避妊の必要がないのが二九三人となつています。これをみると判るように、約六〇パーセントの方が避妊の必要を認めてそれを実行している夫婦で、その中の三八二人の方々がコンドームつまり男性側の器具で避妊をやっているということですね。また、当分避妊の必要がないという人は、その七

「指導する方にも責任が大きいし、覚える方にも真剣さが要するわけですね。」
「え、そうですね。いったいに男性はわがまのようですね。この場合、とくに夫の側の協力がなければならないんです。それでもやはり奥さんの方から積極的にならざるを得ないと云うところに、女性本来の切実なものを感じさせますね。」
「とちよつたり男性への反省が残されています。」

ればせつかくの運動が合なしということになりますから、十分な認識と完べきなテクニックを自分自身につける、というのが、この運動の大切なところなんですよ。」
「指導する方にも責任が大きいし、覚える方にも真剣さが要するわけですね。」
「え、そうですね。いったいに男性はわがまのようですね。この場合、とくに夫の側の協力がなければならないんです。それでもやはり奥さんの方から積極的にならざるを得ないと云うところに、女性本来の切実なものを感じさせますね。」
「とちよつたり男性への反省が残されています。」

文芸欄のウエイト

「広報南関」にはよく随筆か文芸ものが掲載されているが、そのために紙面が親しみやすくなつてゐる。文芸欄は投稿も多いが、この町の婦人たちの短歌会である。「竜瀬の集い」の作品もよく発表されている。このほかに投書や通信の類いも多いらしい。「社会面」には体験談などもかつ合されてゐる。

もつと美しい印刷を

「広報南関」はタブ二頁、毎号三六〇部発行されている。全戸配布のほか、県外にも多く郵送され、町民の関心もたかい。地方のことだから印刷技術の方はとかくいっても限度があるが、もう少し鮮明なインク、美しい活字で印刷効果を上げたいというのが一つの念願らしい。そういう意味で印刷は文化のレベルだといえそうである。編集者の「広報南関」への愛着がそこまでする高まっていることは、その裏に編集者のふだんの創意と工夫があるからである。今後のためまざる発展をひそかに期待して止まない。(広報課)

結婚祝金といつしよ

では、新しく家族計画をおしす、ゆめゆめゆめに、厚生課ではどのような方法をとつてゐるのか、またそのことのためにどのような障害があるかを、ふたたび緒方係長に訊ねてみます。

「まず新婚の夫妻のために、さつやく家族計画の趣意書とその基礎資料を送ることにしてゐるのです。これは、工場から新婚者に贈る祝金に同封して差し上げるわけですから、効果的なんです。いまの若い方々は昔にくらべるとこの方面の知識が意外に深いので、理解の速度も速いと思ひますね。子供は欲しいがあまり早すぎても又多すぎても困る」といふ声はその殆どなんですから、家族計画への踏んざりも早くなります。新婚の奥さんの方には、まだ何と云つても少なからず羞恥心も伴いますので、私の方では先にご主人の方を呼ぶこととして、そこで将来の家族計画と云つたものをお訊ねして、責任のある指導員から説明やら指導をうけるようにしています。

一昨年の九月からこの運動を始めて、二九〇〇世帯のうち一七〇〇世帯の指導を終つてゐますので、この状態でありつと、月に一〇〇世帯が平均目標でありつと、二人の専任指導員では並大抵の仕事ではありませぬよ。指導員が廻る家庭の中には、全然関心のないものもありましてね。旧い因襲や思想から脱けきれぬお姑さんたちがその中に多いのも一つの原因